



町のすがた

(12月1日現在)

人口	男	3,333人 (-6)
	女	3,533人 (+7)
	計	6,866人 (+1)
世帯数		1,568 (+2)

()は11月1日との比較

第153号
毎月15日発行
定価1部20円

昭和55年12月15日
発行 新潟県三島郡三島町役場
☎(025842)代2221
昭和53年7月4日第3種郵便物認可
印刷 長岡市(株)中越タイプ社



多発する労働災害

安全作業の自覚が必要



長岡労働基準監督署は、管内で今年一月から先月までに労働災害で亡くなった人がすでに十一人、昨年の四人を三倍近くも上回る異常な事態となっており、重傷者の数もすでに昨年を上回る七百五十人近くにも

達していることから、年末から年始にかけて「緊急労働災害防止運動期間」として労働災害の防止を呼びかけています。労働者のけがは事業場の安全設備や、事業主の安全に対する熱意不足等の原因もありますが、作業にあたる労働者自身の軽はずみな行動や、安全規律を無視した結果によるものが非常に多いということです。

◇おわびと訂正◇

先月号二ページの受彰記事で、「上岩井の元井カズさん」とあるのは「脇野町の元井カズさん」の誤り。慶弔欄中「青柳ツマ」さんは「青柳マツ」さんの誤りでした。それぞれおわびし、訂正します。

町史編纂室

三島の町史編纂室に加わり久し振りに米町して、しみじみ思うことは、ここにも「歳月の流れ」を知るのであった。そして先賢、知人でもあった平原善一郎、原一六四、田口半武、安達源右衛門の諸賢が相次いで鬼神に入っていたことは寂しいことである。

そのような感情で私は三島町史の一番古い時代を担当したが、三島のしめる立地性から、まったく執筆資料の乏しい弥生式時代、そして次の古墳時代にわたる何百年という長い欠史期間の空白の充填については心残りだし、三島の農耕の開始期と、その地点と集落の形成と規模、そのような集落の成立安定がいつ始まったか、寺院の創建がいつ始まったか、小さな村落の発展史にも何等かの中央文化の影響をうけながら成育

の道をとどるのであって、原始性農耕から脱して歴史時代の古代、それから中世時代へと歩みをはじめたころの埋蔵資料の収集に、三島の各地を歩いたが、手がかりすらも得られないで終わった。しかし意外なところでよい一つの資料に巡り会ったのである。それは町役場の星野洋一兄の永年の採集物、先史時代の土器、石器

の高山山中の発見というので、昨年十一月二十三日、小雨の中を星野兄の案内で越後古代研究会長の竹田祐司兄を伴って現地を訪れた。はじめはなかなか遺物すら発見できなかったが、やがて松林や雑木中の古い開田痕跡をもつ北むきの斜面で、とうとう二十点ほどの杯、鬘、甕などの破片を発見し、また崩れた登り窯の壁土や、木炭

奈良時代の「一ノ沢の窯場」

中村 孝三郎

の中から私は、特異な須恵器の破片(写真)を発見したのである。昔から朝鮮製とよばれ、上ぐすりの塗られていない青黒い硬い陶器のかけらの大、小二つのものが、須恵器をつくる登り窯の千二一三百度の高い熱の中で、自然発生した溶液によってかたく付着したもので、この資料は須恵器製作の窯場以外ではみられないものであった。地点は鳥越集落の西方、一ノ沢

片なども採取することができた。これらの資料は少ないものであったが、最産された廻転クロコブくりの須恵の破片と、壁土による窯址の確認などからは、まだこの地点にいくつかの窯址の存在が推定されるのであった。そして古墳時代に大陸から伝来されたこれらの硬い生活什器が鳥越を中心を生産され、物々交換、あるいは当時の小さな定日市場へと流れていた

何の変哲もない須恵器の窯場であるが、その生産遺物はほぼ千二一三百年前の奈良時代前後のものともみなされ、このような集団した職能技術の組織工人の群れによって、量産を目指した製陶、生業の所在性は、三島地方の消費集落の本格的な成立と、産業経済の歴史的な大きな意義が見いだされるところで、地味な星野兄の努力によって三島町史に一頁を加えることができたことは、彼に心から敬意を表すとともに、今後、町当局の理解による研究発掘調査が望まれるところであらう。



今月の保健行事

対象者	内容	とき	ところ
生後2か月～1歳児	乳児健診	1月8日 12:30～1:30	福祉センター
希望者	心の健康相談会	1月9日 13:30～14:30	〃

温かいご協力感謝します

◇歳末たすけあい募金
484,433円(12月15日現在)
◇中学校生徒会
文化祭の際開いた「チャリティパーゲン」の益金37,631円を、町の恵まれない人たちに寄付。



「第10回趣味の会」

◇とき 1月18日(日)午前9時開会
◇ところ 町総合福祉センター
◇種目 囲碁、将棋、麻雀
◇会費 1人1,200円(昼食、飲物つき)、全員に参加賞、入賞者には賞品。
◇申込 当日会場で受け付けします。お誘い合わせご参加ください。
主催：三島町趣味の会



▲結ぶ位置が高すぎたけどいいや、そんなこと言わないで下さい。真剣なんだから



「文字どおり手に手を取って」教えるお父さん、お母さんも一生懸命。



何んだかんだと言っているうちに年の暮れ、ふだんはどしどしりと落ちてきているような人でも年末ともなると、まわりがそうはさせておきません。俳人一茶の句に「おみそか梅見ているを、そしらる」というのがありますが、そしられた人も、そうだった、あれを年内に」といって家を飛び出していったことでしょうか。最近でも、商店街などを始め、大晦日(おみそか)の夜は、夜遅くまで働くところがあふ、慌ただしいまの気配は、今も昔もあまり変わりがありません。そば、ブリ、塩ザケなどを食べたり、二年参りに社寺に詣でたりする年送りの風習は、日ごろそんなことに全く関心のないヤングたちもあっさり順応、それもそばといえは中華そばを連想するとみえて大晦日の夜は中華そばの店も大繁盛するとか。夜の十二時を期して百八つの煩惱(ぼんのう)を除き、新しい光明の年を迎えるこの行事は江戸時代に始まったものといわれています。除夜の鐘を「生」で聞か、テレビで聞かば、全く××の勝手。それなりの今年であつても、来る年がより以上の年であるよう願うは人の常。——幸多い新年でありますように。

東西南北 年の暮れ

自然環境に恵まれて住みよい32%

広域圏アンケート結果まとまる

困る1位は冬期道路の除雪対策

三島町など隣接十八市町村で構成する「長岡・小出広域圏」が、これからの広域圏の将来構想を策定するため実施した「広域圏アンケート」の結果が先ほどまとまりました。それによると、広域圏住民が一番困っていたり、必要とする対策は「冬期間の除雪対策」が圧倒的に多く、自分の市町村について「住みよい」と感じるといふ人は「住みよい」と答えた人が、四人に三人以上あるなど「住みよいが、冬期間の対策を何んとかして」という切実な広域圏住民の願いが反映されています。

町総合計画の貴重な資料に

調査は七月中旬から下旬にかけて広域圏内の有権者三千人を無作為抽出して、往復とも郵便による方法で実施されたもので、抽出率は一割、回収率は七十二・八割でした。調査結果は、広域圏全体と各市町村の結果とにそれぞれ分かれていますが、三島町の分に限っても広域圏全体の結果に酷似しており、これをそのまま町のアンケートに置き替えることもできます。

新鋭除雪車を配備

除雪作業に協力を

十二月十日、新しい除雪車が町に配備され、今冬の除雪能力が大きく充実しました。冬期間の道路確保は、雪国にとって宿命とも言え、行政の重要課題の一つで、消雪パイプによる融雪道路の延長、機械力の充実も施策としても大きなウェートを占めています。納車された除雪車は、車輪式のロータリー車で付属品なども含めて総額二千二十万円の最新鋭機です。町除雪計画では、このほか業者からの借り上げ機材力なども含めて、早朝時までに確保する第一、第二種路線となつていきます。担当の建設課では、「この路線については、通常の降雪量なら大丈夫。残る路線についても、できる限りの早期確保を目指す」と話しています。

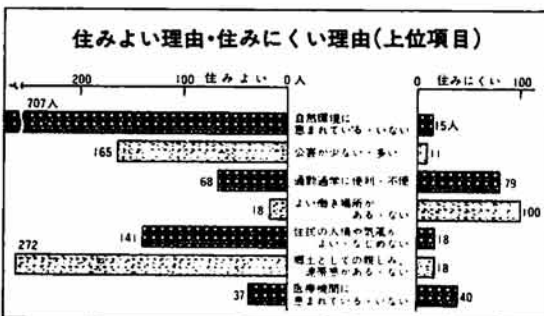


配備された新鋭除雪車

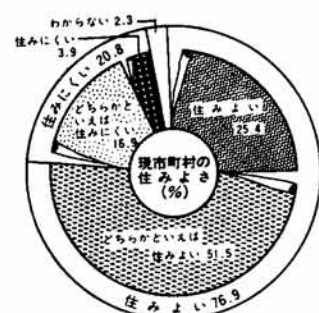
遠藤栄門氏助役に再任

臨時議会 教育委員二氏も

十一月二十一日、町議会第六回臨時議会が開かれ、助役の任期満了（十一月二十八日）にもなう選任案件について議会の同意があり、遠藤栄門氏の再任が決まりました。また、教育委員会委員の二人の委員の任期満了にもなう任命案件についても、同意があり、逆谷の定住意識についても同様、世代隔絶の傾向が強くなっています。自分の市町村の住みよさについては七七割、四人に三人以上の人「住みよい」と答え、その理由に「自然環境に恵まれて住みよい」「三割、八割と答えており、自然環境に恵まれている点が良いとして、人々興味あふれる点が良いとして、

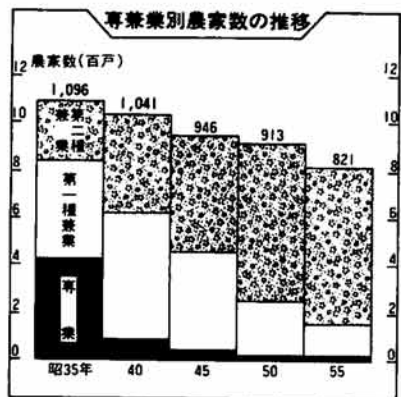


十一月二十一日、町議会第六回臨時議会が開かれ、助役の任期満了（十一月二十八日）にもなう選任案件について議会の同意があり、遠藤栄門氏の再任が決まりました。また、教育委員会委員の二人の委員の任期満了にもなう任命案件についても、同意があり、逆谷



このアンケート結果は、現在進められている町総合計画の策定にも貴重な資料として生かされることになっていきます。

農林業センサ 農家数大きく減少821



経営規模二極化に向う

基幹的農業従事者も激減

農林業に関する全国調査「一九八〇年世界農林業センサス」は、今年二月一日現在で実施されましたが、このほどその概要がまとまりました。それによると、町の農家数は八百二十一戸と、前回より十割以上減少、農業従事者の高齢化が一段と進むなど、農業が直面する種々さまざまな姿が浮き彫りにされました。

一般に農業センサスと呼ばれるこの調査は、五年目毎に実施されているもので、今回は林業に関する調査項目も加わる大規模調査にあたり、その結果は国連食糧機構（FAO）にも報告され、国際的な統計比較にも利用されることになっていきます。

昭和三十五年には、町全世帯に占める農家数の割合は六八割、人口比は七一割でした。今回調査の結果ではこの割合が農家数で五二

経営規模別農家数

経営規模	今回	前回	増減
30アール未満	129	116	13
30～50	110	146	-36
50～70	92	123	-31
70～100	109	141	-32
100～150	142	156	-14
150～200	106	130	-24
200～250	73	63	10
250～300	36	29	7
300アール以上	24	9	15
総数	821	913	-92

さらにグラフのように、農業以外の収入の方が多いという第二種兼業農家の割合が高いことから、「農業が中心」という農家は町全体の十割を割り込む状況です。

昭和三十年代の後半、農業の曲り角」という言葉がよく使われま

製造業の事業所対象に「工業統計調査」

毎年、十二月三十一日を調査基準日として「工業統計調査」が実施されています。今年もこの調査のため、町内で製造業を営んでおられる各事業所に一月に入ると、調査員がお伺いいたします。



通帳と印鑑は別々に保管

夜間の電話料金

安くなりました

通話料の夜間引きの時間帯が、十一月二十七日から、前後一時間ずつ延長され、夜七時から翌朝八時までに延長されました。さらに三百二十メートルを超える地域へ夜九時から翌朝六時までにダイヤル通話（交換手扱いを除く）した場合は、深夜割引引きとなり、昼間料金の約六割引きとなります。

石炭の復活
エネルギー源多様化の有力な目玉として、いま、石炭が大きく脚光を浴びています。石油が、あと三十年ぐらいで底をつくといわれるのに対して、石炭の埋蔵量は世界でざつと六千四百億トン。現在の生産量（年間三十二億トン）の二倍のペースで掘り続けても、百年はもつ巨大な量の資源であること、石油のように地域的に偏ら

よみがえる「黒いダイヤ」



日本独自のすぐれた方法・技術も開

新しいエネルギー⑥

ず、世界中でまんべんなく産出することなど、わたしたちにとってまさに頼りがいのあるエネルギー源です。

発され、実験的な生産プランもすでに始動していますが、本格的に実用化するには、もう少しばかり時間がかかりそうです。

調査結果は行政の指針に農家数が減少し、兼業化が強まるにつれ、農業に従事する人の数も大きく変化し、「自分は農業が本業」という基幹的農業従事者とい

力をお願いいたします。佐藤隆博(瓜生) 榎澤正二(脇野町) 佐藤利夫(同) 田中忠雄(吉崎) 小林喜一(上岩井) 曾根晴夫(七日市)

り、助申し合い、病気の治療に役立てようとする「友の会」が全国組織で結成されており、県でも昭和四十八年に支部が結成されています。

局(☎32-11000)へ。